

各水試発トピックス

斜里町ウトロ地区で「いきいき水産学園開催事業」

～ ホタテ貝柱フレークの加工実習～

平成15年11月13日、斜里町立ウトロ小中学校で、平成15年度普及関連事業「いきいき水産学園開催事業」が行われました。この事業は、漁業後継者の担い手育成を目的として網走地区水産技術普及指導所東部支所が主催する事業で、ウトロ地区では昨年が続いての実施となりました。

今回は、中学1年生の男子6名、女子6名を対象としてホタテ貝柱フレーク作りに挑戦しました。ホタテ貝柱フレーク製造の指導は網走水産試験場紋別支場と網走地区水産技術普及指導所東部支所が行い、ウトロ漁業協同組合からも協力していただきました。

ホタテ貝柱フレークは、ホタテガイ貝柱の風味を活かしたうえ栄養価も高く、保存性についても優れ、和洋中さまざまな料理に活用できるおいしい製品です。

普段、ホタテガイを食べ慣れている？生徒たちも、実際にホタテガイ貝柱をフレーク状にするのは全員が初めての経験ということもあり、慣れない手つきで作業を行っていました。

今回は、ホタテ貝柱フレークを利用して、「卵焼き」と「かき揚げ」料理を作りました。卵焼きは生徒も上手に作ることが出来ました。また、試食後の反応は、一様に「ホタテガイの風味があり美味しい」と言うことでした。

ホタテ貝柱フレークを作る上での注意点として、蒸す時間はおおむね20分～25分、フードカッターでほぐす工程では蒸しあがってすぐに（貝柱が熱いうちに）ほぐすこと、簡易加熱殺菌ではピン詰めたフレークを蒸し器で約30分加熱殺菌すること等を指導し、冷蔵（10℃）で約2ヶ月ほど保存可能（未開封で）であることを説明しました。

今後も、加工指導や講習会の機会を積極的に活用し、子供達に水産加工品に興味をもってもらいたいと思います。

（網走水試紋別支場 武田忠明・秋野雅樹）



開 会 式



製造作業指導中



製造作業中の生徒達

各水試発トピックス

第26回、27回日口研究交流開催される

今年度も北海道立水試とサハリン漁業海洋学研究所（サフニロ）との研究交流が第26回と第27回の2回開催されました。研究交流では、海洋や貝毒プランクトンに関する共同調査の結果や計画について協議され、情報交換や研究発表も行われました。

第26回研究交流は平成15年7月9日～16日にサハリン・ユジノサハリンスクのサフニロで開催され、中央水試の渡辺資源管理部長、稚内水試資源増殖部の中島主任研究員、中央水試加工利用部の木村品質保全科長が派遣されました。

共同調査に関する協議の他に、研究発表では北海道水試から、マナマコの栽培漁業や腸炎ビブリオについて発表しました。サフニロからは、マナマコ、マコンブ、ウニ給餌、カニの疾病について発表がありました。これまでの研究発表は、海洋や漁業資源に関するものが多かったのですが、今回は腸炎ビブリオやカニの疾病の発表もあり、研究交流の分野が広がりました。また、北海道水試とサフニロの研究員のリストと研究対象生物のリストが交換され、今後さらに研究情報の交換が進むと期待されます。

第27回研究交流は平成15年10月15日～22日に中央水産試験場で開催され、サフニロからタラシュク第1副所長、グドゥコフ内水面生物資源研究室長、ムハメトフ魚類資源研究室研究員が派遣されました。

研究発表では、サフニロからオヒョウや湖の魚類相について発表がありました。北海道水試からは、河口域の落ち葉だまりや、シラウオ、ワカサギ、スケトウダラ、ヒラメ、貝毒プランクトンについて発表しました。今回初めて水産孵化場からも参加され、内水面資源も含めて活発な論議がありました。また、貝毒プランクトンの共同調査に関する協議や漁業資源に関する情報交換も行われ、

北海道水試とサフニロの双方に有益で有意義な研究交流となりました。

今年度の研究交流では、日程をこれまでより長期の8日間としたため、協議や研究発表等に十分な時間をとることができ、さらに双方の自然や文化に触れる機会もあり、研究以外の面でも交流を深めることができました。また、交流の前後には歓迎会や送別会も行われ、北海道水試とサフニロの職員同士の懇親が深まりました。次回の第28回研究交流は、平成16年6月にユジノサハリンスクで開催される予定です。



第26回研究交流の写真



第27回研究交流の研究発表風景

(中央水試企画情報室 中明幸広)

各水試発トピックス

第4回青函水産試験研究交流会議の開催結果

平成15年10月22日に第4回青函水産試験研究交流会議を函館市で開催しました。

参加人数は漁協職員、市町村水産担当者、水産業改良普及員など約80名が出席、会議は北大大学院水産科学研究科の桜井教授が「気候変化に伴う海洋生物資源の変動」と題した基調講演に続き、「資源管理・海洋部門」、「資源増殖部門」、「種苗生産部門」の3部門の構成で青森県、北海道の研究者7名が最新の研究報告を行いました。

本会議は隔年開催とし、青森県・北海道（函館市）で交互開催しています。

聞くとところによると、平成11年に函館で開催した時は台風でJRが止まり、青森県側の発表者の到着が遅れ、プログラムの変更があったようですが、今回は何事もなく無事終了しました。

青函水産試験研究交流は、平成3年度から実施しており、当初は研究者の交流や情報交換等が目的でしたが、平成7年度に交流の進め方が見直さ

れ、現在は、

①機関連絡会議活動の企画・運営の協議

②共同研究・研究交流
研究者の自

発的な提案・機関連絡会議の協議により、課題を選定し、随時活動

③試験研究交流会議

共同研究・研究交流で得られた成果等の発表の3つの交流会議で活動しています。

津軽海峡の対岸に位置する青森県と北海道（函館）、共通する魚種も多いはずです。

さらなる水産試験研究の発展を目指し、今後も交流を深めていくことが、重要であると考えています。（函館水試企画総務部 菊池浩幸）

